

## JSS 四国 第11回地方会のお知らせ

実行委員長 渡邊 亮司 (済生会今治病院検査科)  
主催 JSS 四国地方会 日本超音波検査学会

JSS 四国第11回地方会を下記のとおり開催いたします。

今回は心臓超音波検査についての講演を中心に行います。テーマは「心臓超音波検査による心機能評価法の考え方とテクニック」です。

ソノグラファーとして心臓超音波技術を構築するうえで、先駆的に技術者に指導をされ育成してこられた諸先生方がどのように考えて、どのように後進に伝えたかをご講演いただきます。

### 記

テーマ：『心臓超音波検査による心機能評価法の考え方とテクニック』

日時：2009年7月26日(日) 10時00分～16時10分

会場：徳島大学病院 臨床講堂

参加費：正会員・事前登録：1,000円、正会員・当日受付：1,500円 非会員(事前登録なし)：3,000円

ご注意：\*事前登録受付期間：2009年6月18日～7月2日(※2009年6月11日～WEB先行受付) 定員：200名

\*変更となる場合もあります。詳細は学会ホームページ (<http://www.jss.org>) をご参照ください。

\*事前登録は登録時点で入会が承認されている会員の方のみご利用が可能です。

非会員の方や入会手続き中の方はご利用いただけません。

\*事前登録のみで定員に達した場合は、未登録の方の当日ご参加はお受けできません。

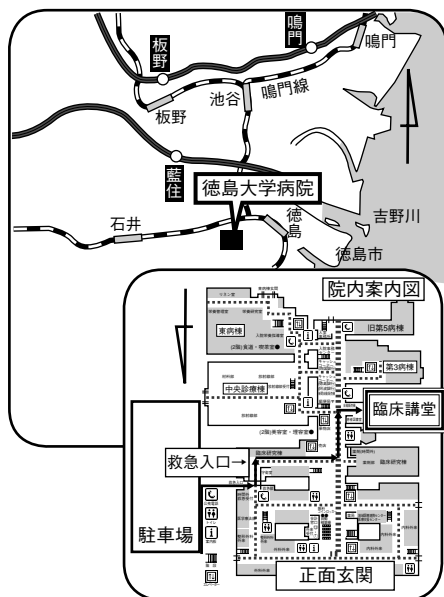
\*申込状況はホームページの地方会のページをご覧ください。

\*空席がある場合のみ当日参加をお受けいたしますが、受付開始は事前登録の方を優先させていただきます。

\*地方会の参加には事前登録の有無に関わらず会員証をご持参ください。

\*会場内でのビデオカメラおよびデジタルカメラでの撮影は禁止といたします。

\*本会は、日本超音波医学会認定の超音波検査士資格更新、5単位が取得できます。



### 徳島大学病院 臨床講堂

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

- JR 四国徳島線をご利用の場合  
徳島駅から「阿波池田」行、または「穴吹」行に乗車し、「蔵本駅」下車、徒歩5分。
- 徳島市バスをご利用の場合  
徳島駅前「上鮎喰」行・「地藏院」行・「名東」行のいずれかに乗車し、「蔵本中央病院・大学病院前」で下車、徒歩約5分。
- 徳島バスをご利用の場合  
徳島駅前「鴨島方面」行に乗車し、「蔵本中央病院・大学病院前」で下車、徒歩約2分。

連絡先：〒799-1592 愛媛県今治市喜多村7-1-6 済生会今治病院検査科 渡邊 亮司

TEL: 0898-47-2500 (内線：3142) E-mail: [jss-shikoku@mail.jss.org](mailto:jss-shikoku@mail.jss.org) (できるだけEメールでお願いします)

JSS 四国 第 11 回 地方会 プログラム

7月26日(日)

9:00~10:00	受 付
10:00~12:00	<p><b>第I部 講演</b>  <b>講 演:</b>「超音波検査技術の伝承・心機能評価法 パート1」  <b>講 師:</b>遠田 栄一(三井記念病院中央検査部)  <b>講 師:</b>戸出 浩之(群馬県立心臓血管センター技術部)  <b>司 会:</b>西尾 進(徳島大学病院超音波センター)</p> <p>心エコー検査の特徴の一つとして、無侵襲に心臓の機能を評価できることがあり、日常検査の大半が心機能評価目的で依頼されているといっても過言ではない。心機能評価を正しく行うには、装置の設定や記録法、計測法の習得に加え、循環血行動態の知識が必要となる。単に計測した数値を羅列して検査結果とするのではなく、疾患や左室容積、内圧などを総合的に判断した結果として心機能に言及すべきであり、演者らはこれらの考え方を後進に伝えるべく日々の指導にあたっている。</p>
12:00~13:00	昼 食
13:00~15:00	<p><b>第II部 講演</b>  <b>講 演:</b>「超音波検査技術の伝承・心機能評価法 パート2」  <b>講 師:</b>増田 喜一(国立大阪南医療センター臨床検査科)  <b>講 師:</b>高橋 秀一(天理よろづ相談所病院臨床病理部)  <b>司 会:</b>前田 泰弘(健康保険鳴門病院生理機能検査室)</p> <p>心エコー検査のオーダーを受ける際、十分かつ的確な検査目的が事前に提示されていることは数少ない。患者を目の前にして、検査前の会話を含む「技師ならではの身体所見」をとりながら検査へ進めることは、心機能評価への大きな情報となり得る。</p> <p>現在、何もかもがマニュアル化される時代ではあるが、多くの枝葉をもつ循環器疾患はこの身体所見の取り方が大切であり、演者らは文字表現だけではなく体得をもって経験を積むことを後進に伝えるべく日々の指導にあたっている。</p>
15:00~15:10	休 憩
15:10~16:10	<p><b>第III部 講演</b>  <b>講 演:</b>「経食道心エコー法事始」  <b>講 師:</b>山田 博胤(徳島大学病院循環器内科・超音波センター)  <b>司 会:</b>渡邊 亮司(済生会今治病院検査科)</p> <p>心エコー・ドブラ法は、非観血的検査であることを身上とするため、経胸壁アプローチで必要とする情報が得られるならば、それに越したことはない。しかしながら、日常臨床においては、経胸壁からの記録だけでは得られる情報に限界がある症例が少なからず存在する。例えば、肥満、慢性肺疾患、胸郭変形、人工弁置換術後などがその典型である。この原因としては、超音波の透過が障害されたり、超音波ビームの入射範囲が制限されたりすることが考えられる。</p> <p>経食道心エコー法を用いれば、このような問題点を解決することができる。また、経食道アプローチでは、プローブと心臓との距離が近いため、高い周波数を用いて解像度の優れた画像を得ることができ、経胸壁心エコー法では不可能な診断が可能となる。</p> <p>超音波検査士は、経食道プローブを操作することはできないものの、検査時のパネル操作を行うことがある。上級検査士となれば、医師のプローブ操作を誘導し、必要な断面を描出する(させる)ことも可能となる。また、経食道心エコー図を習得し知識を深めれば、普段の経胸壁心エコー検査でも役に立つ。本レクチャーでは、経食道心エコー法の基礎から臨床応用までを概説する。</p>